

印西市地域公共交通計画（素案）に対するパブリックコメント意見

ページ	提出意見	対 応
一	<p>公共交通の利用促進の提案をいたします。</p> <p>1.鉄道駅を起点としたバス網の整備（幹線バスルート）            例①布佐駅～木下駅～千葉ニュータウン中央駅 ②小林駅～千葉ニュータウン中央駅～印西牧の原駅            ③小林駅～印旛日本医大駅～酒々井駅 ④印西牧の原駅～印旛日本医大駅～酒々井駅</p> <p>2.幹線バスルート上に重要な公共施設のバス停を整備            例①市役所、印旛支所、本埜支所、中央駅前出張所、牧の原出張所、小林出張所、船穂出張所、岩戸出張所、平賀出張所、滝野出張所、各公民館、コミュニティセンター</p> <p>3.幹線バスルートのバス停間を結ぶ小回りの循環線            例①高齢者のための施設、公園、印西斎場などの公共施設、日本医科大学千葉北総病院、印西総合病院、地域の医療施設、ショッピングモール、スーパーマーケット、生活のために買い物するお店</p> <p>4.高齢者ふれあいバス無料乗車カードの利用範囲を印西市内全域に拡大する。このことにより、高齢者と同行する人の乗車が増え、利用者増が望める。</p> <p>5.所要時間については、幹線ルートは1時間以内、循環ルートは30分前後で一定の本数が運行できる事が利用増につながります。</p>	<p>今後、ふれあいバスルートを再検討する際、参考にさせていただきます。</p>
表紙・奥付	<p>表紙・奥付の〇月を記載すべきである。</p>	<p>策定月は、最後に記載する予定です。</p>

1	はじめにの9行目に「こうした課題を解決」とあるが、重複路線・運賃不均衡が優先課題のように記述されており、本来は市民の移動ニーズや地域特性に基づくバス運行の利便性が最優先とされるべきであることから、「鉄道5駅を起終点としての路線改定（見直し）、市公共施設を網羅する利便性向上を図るバス運行」を考察すべきである。	市民の利便性向上を図ることは最重要と考えておりますが、全国的に、今あるバス路線網を維持することが難しくなっており、その課題解決が問題となっております。印西市も例外ではなく、本計画が、民間バス路線を含めたバス路線網のあるべき姿を示すものになります。
14	各項目の囲み文章に対応する説明図、例えば（1）の印西市の人口・世帯数については（P6～P9 図4～図8）と案内しておくべきである。以下、（2）（3）（4）も同様である。	より見やすいように、修正いたします。
22	各項目の囲み文章に対応する説明図、例えば（1）の場合（P17 図13）と案内しておくべきである。以下、（2）（3）も同様である。	より見やすいように、修正いたします。
28	「出典：各事業者（令和元年10月現在）」とあるが、「（令和2年10月現在）」若しくは直近時を案内すべきである。	御指摘のとおり、修正します。
40	各項目の囲み文章に対応する説明図、例えば（1）の場合（P25 図18、19）と案内しておくべきである。以下、（2）（3）（4）（5）も同様である。	より見やすいように、修正いたします。

66	<p>囲み文章に「抜本の見直し」「多角的な視点」と抽象的な表現が重なって記述されており、具体的にどのような見直し・視点かを記述しておくべきである。</p>	<p>現時点で具体的な内容が決まっておられません。 今後の検討を進めていく際、参考にさせていただきます。</p>
73	<p>「バス利用者数・ふれあいバス利用者数」の目標値（令和7年）251,000人とあるが、総合計画第1次基本計画における目標値270,600人との整合を図るべきである。</p>	<p>御指摘のとおり、整合を図ります。</p>
—	<p>参考資料として「地域公共交通会議設置要綱」「委員名簿」「会議開催計画報告」等を記載すべきである。</p>	<p>見やすい計画とするため、参考にさせていただきます。</p>

「印西市は自動車利用が多くなっています。」とか、「印西市民の運転免許証や自動車保有率、毎日自動車を運転する割合は非常に高い状況であり、自動車中心社会であることがわかります。」あるいは、「市民の過度に自動車に頼る状態である。」など、市民が恣意的に自動車を保有しているかのごとき前提で立案されているが、市民が自動車を保有して自家用車で移動せざるを得ないということが自動車の保有率の高さや、市民の運転免許証の保有率が高い原因であるということ認識して、印西市地域公共交通計画を立案することが必要である。

一 印西市が平成29年に実施した「市民満足度・重要度調査」において、住みたくないと回答した人は約1割で、その理由が「バスや電車などの公共交通が不便である」が最も多く、「買い物などの日常生活に不便である」が次いでいる。大型商業施設や、公共施設、更には医療施設等が増加しても、公共交通網が整備されなければ、日常生活ができない。市民は仕方なく自家用車で移動し、日常の買い物や、医者通いなどを行っている。千葉ニュータウンが誕生して転入してきた人々は、高齢になってきているが、運転免許証を返上したら、日常生活ができなくなるため、危険を承知の上で自家用車を運転している。市民の足として交通網を充実させるためには、バスを用いて公共交通網を整備充実させる以外に方法はない。印西市のバス網が発展しない理由は、本当に市民が日常生活で利用できる路線網がなく、仕方なく自家用乗用車で生活しているため、バスの利用者が少なく、バス会社は経営がむつかしいので路線を増やすことができず、市民はますますバスを利用しないという悪循環となっている。これを打開するためには、市は、これらの私営バス会社と共同でバス網を充実させることを考えるべきである。タクシーや、市営のコミュニティバスや、乗り合いタクシーなどは、非効率であり、重点施策ではない。抜本的に構想を見直すべきであるとする。バス公共交通網の整備により、現在の自家用自動車中心社会からの抜本的な転換を図り、公共交通ネットワークを利用して、便利で気軽に市民生活ができる町を目指していただきたい。

御意見として、参考とさせていただきます。